

(平成26年4月15日)

第5回 赤松小三郎研究会のご報告

日時 : H26. 4. 15 (火) 18:30~20:30
場所 : 東京・文京シビックセンター 5F会議室A
出席者 : 19名

< 内容 >

1. 配布資料

- (資料1) 佐久間象山 略年表
- (資料2) 幕末に於ける視座の変革 (佐久間象山の場合) 石井光春さん手書き資料
- (資料3) 幕末に於ける視座の変革 (佐久間象山の場合) 丸山眞男全集9巻よりコピー
- (資料4) 「遠い崖アーネストサトウ日記抄7江戸開城 (荻原延寿、朝日文庫、2008年) コピー、宮原安原さんより
- (資料5) 東京大学資料編纂所DBより「大日本維新史料稿本」の検索。石川浩さん

2. 宮原安春さん(58期)

- (1) 文藝春秋6月号(5月10日発売)の巻頭エッセイ欄に赤松小三郎の記事が載る・宮原安春氏(58期)が執筆。タイトルは「暗殺された民間憲法構想第1号の建白者」(仮題)になる予定。
 - ・「赤松小三郎研究会」も世の中にその存在が知られるようになるため、丸山瑛一氏(51期)に当会の会長をお願いした。また、事務局長として小山平六(62期)がその任に当たる。当面、外部からの問い合わせには宮原安春氏にお願いする。
- (2) 「遠い崖 アーネスト・サトウ日記抄 江戸開城」の紹介
 - ・文中に医師ウィリスが江戸から信州を經由し、越後、会津へ旅行した記録があり、上田の町できちんとした洋装の老紳士に出会った。その人は上田藩士の門倉伝次郎で、赤松小三郎より以前にアプリン大尉から騎兵の訓練を受けた人である。

3. 石井光春さん(54期)による、丸山眞男の講演録「幕末における視座の変革—佐久間象山の場合—」の解説

石井光春さんは学生時代(1958年)に丸山先生の「東洋思想」、「現代政治の思想と現状」などの講義を直接聴講された貴重なご経験があり、そのことを回想されながらのお話。講演録は1964年に丸山眞男が郷里の松代町(生まれは大阪)の象山没後100周年記念での講演内容。

要点は以下の通り(石井さん手書き資料など)

◎世界知識の国民化

- ・象山は松代藩に教育改革を提唱している。
- ・学問、知識を一部上層階級のエリートや指導者の独占に留めるのではなく、貴賤尊卑を問わず下々まで学問知識がゆきとどいてはじめて西洋列強に対抗できる。
- ・万人に学問・知識を公開すべし。
- ・そのためハルマ辞書の刊行に執着する。
- ・徹底した主知主義。

◎西洋（世界）に学べ（真理は一つ）

- ・アヘン戦争のショックが象山にそれまでの中国一辺倒の常識の再検討を迫った。
- ・2~3カ月でオランダ語をマスターしたという逸話がある。
- ・33歳のとき、ショメールの百科事典を買い、そこに書かれたことを実験した。
- ・朱子学は西洋学問と似ているとしたが、陽明学は排除した。
- ・自分を東洋と同一化すること（ウチの意識）から解放した（ウチ、ヨソの意識をなくす）
- ・「万学の基本」としての詳証術、実験主義

◎対外交渉術

- ・「辞令を修める」→自主対等外交を実践すべし。
- ・交渉においては相手の矛盾を突き、堂々と自分の主張をする。

◎伝統的概念装置の再吟味

- ・現代の世界像＝欧米中心の世界像 からどれだけ解放されているか
- ・民族の独立、国家の独立、民族の自衛力・・・とはどういうことか再考する必要あり。以下本文より“世界にぬきんでた巨大な軍備を有するアメリカなりソ連が、いったいどれだけ国家の安全感を享受しているか。いわんやどれだけ世界の尊敬を得ているか。”

◎象山は砲術家では下曾根金三郎を評価している。(なんでも惜しみなく教えるのでそれにひきかえ、同じ砲術家の江川坦庵を誹謗している。(秘伝と称し、教えたがらないので)

◎象山書院（象山の塾）には勝海舟、吉田松陰、橋本左内、山本覚馬、坂本龍馬、加藤弘之など錚々たる人が学んだ。

◎横浜開港を主張した理由→→横浜は下田や浦賀に比べ江戸に近い為、異人が悪事を働きにくいだろうということ。

◎福沢諭吉と直接の接触はないが、象山書院には中津藩から70名も入っていたので、間接的に彼等を通して福沢は象山の影響を受けている可能性がある。

◎赤松建白書にある言葉は20年も前に象山が主張した中にも見える。「海軍」、「四民平等」、「教育の普及」

◎視座の変革

- ・「ウチ」、「ソト＝ヨソ」発想からの解放
- ・西洋知識の国民化（四民の差別なく）
- ・学問・知識の国民への公開・解放
- ・西洋（外国・世界）に目を開け！（原書に当たれ！ 外国へ行ってみよ！）
- ・外国（西洋列強）に対し、したたかになれ。

◎その他

- ・赤松の手紙が松代にある可能性あり（宮原安春さん）
- ・「ウチ」、「ソト」意味は「ホンネ」と「タテマエ」とは異なる。
- ・象山は大変なナショナリストである（実証主義、主知主義に基づく）。その点、他の幕末の志士とは異なるナショナリストであった。
- ・朝鮮も日本と同様、鎖国をしていたが“朝鮮はなぜ開国できないか”という本がある。オー・ソン・ファーという女性の著書（丸山瑛一さん）
- ・薩長が公武合体ではなく倒幕に向かった理由はなにか？→一つの理由は外国と戦争を経験した点
- ・西南雄藩は三角貿易をすることで（サトウキビ、昆布）で蓄財した（沓掛忠さん）
- ・象山は学問・知識の国民的普及のため「5ヶ国語辞書」の作成を上申するが、阿部正広により却下される。

4. 資料検索の方法説明（石川浩さん）

東京大学史料編纂所の「大日本維新史料」データベースのパソコンによる検索方法の説明。

以上

赤松小三郎研究会事務局 小山平六（62期）